

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 看護学科

名 前 阿保 真由美

作成日 2025年4月25日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

人間総合科学大学 保健医療学部 看護学科では、「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を基盤に、看護学の基礎的な知識と実践応用能力を修得し、生涯にわたり看護師に必要となる資質と能力を身につけ、関連職種と連携・協働しながら、人々の健康の維持・増進、疾病の予防を支援する人材の養成を目的としています。

私は、看護学科(精神看護学領域)教員として、精神看護援助論Ⅰ・Ⅱ/精神看護学実習/統合実習/看護研究Ⅱなどを担当し、今年度は、1年生を担当し、学生委員、実習委員を務めております。

精神看護援助論を学ぶことで、「こころ」と「からだ」の関連性から人間の総合的な理解を促進できるような学習を展開したいと思っています。対人援助職をめざす上で、人と関わり学びを深めることのできる実習は、非常に有意義なものです。特に、精神看護学実習などにおいて、その人を理解するには、生活史や家族背景、地域生活や就労などの心理社会的環境や精神医学的視点とのつながりから捉える必要があることを体験を通して学べる場であると考えます。学生の実習の場での学びを深め、学習意欲を高めて主体的な学びを促進していくことが大切な責務であると認識しております。実習や授業などの場で、社会人としての基礎的能力を向上できるよう関わり、学生個々の強みをフィードバックしながら、それぞれのめざす将来にむけて資格を取得できるようサポートいたします。

さらに、看護学科の先生方と協働して教育方法や戦略を考慮した授業を実施し、振り返り、改良させ、学生の学修状況がアウトカムに向かっているのかを把握し、定期的に評価・フィードバックし、教員としての役割を発揮していくことも責務であると考えております。

私自身も強さとしなやかさを持って豊かな人間性を育み、「人間の健康と幸福に寄与する」人をめざしています。同時に、引き続き、そのような人材を育成できるよう努めてまいります。

2. 理念（教育に対する考え方）

我が国は、超高齢社会の進行により疾病構造が変化し、地域包括ケアシステムの構築など、地域での看護師の活動の場も拡大し、看護師にはこれまで以上に多様な場で状況に応じ適切に対応できる看護実践能力が求められています。卒後の生涯学習において能力の開発・維持・向上に取り組むことが不可欠であり、看護基礎教育課程における学びが基盤となります。学ぶことの楽しさを感じながら基礎的な知識を身につけ、メンタルヘルスを維持しながら取り組むことのできる力を培えるよう関わりたいと思っています。

精神看護は、精神疾患を抱える人だけでなく、すべての人を対象としています。回復と成長の可能性を信じ、その人らしく生きて自己実現へと向かうプロセスを支えるために、精神的、身体的、社会的な援助を提供します。個々の成長を信じ、支え、自分を高めて活かせるよう支えていくという意味で精神看護と教育は似通っているようにも思われますが、ケアとなり、学生の力を損なうことのないよう教育的に関わることを強く意識しています。学生が主体性を持って学びを積み重ね、習得した知識をもとに多角的な視野で考え、他者と関わる中で思考が深化するよう個々の成長に寄り添い、ともに探求していきたいと考えています。

同時に、高度実践看護師（精神看護専門看護師）として、実践者であり、教育者であり続けられるよう自己研鑽を積み、看護実践、看護教育の質向上をめざして邁進したいと思います。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

将来的に、多様な場、人を対象に、自分自身の人格や強みを生かして個別的な看護を実践できる能力を培ってほしいと思っています。そのために、授業、実習などにおいて、まずは、学生が安心して安全に学習できる環境づくりに努めています。学生個々を尊重し、様子をうかがい、努力やできていることをフィードバックし、自分らしさも大切に伸ばしていけるよう関わっています。そうすることで自信や自己肯定感を高め、学生自らが課題を認識し、目標を設定して行動でき、資質や能力を向上させることができると考えます。

また、楽しみながら主体的な学びを促進させ、創造性や問題解決能力を高めてほしいと考えています。このため、授業時、最近の風潮、課題、知見などを取り混ぜて伝えることで学生の関心を惹き出し考える場を設けたり、理論と実際が結びつくよう経験や具体例をまじえて示すよう努めています。リアクションペーパーの感想や質問を取り上げて伝え、解説する。次回の授業テーマに引き付けた課題を提示し、復習、予習の反転授業を繰り返す。授業内容が多くなりすぎぬよう分量を調整するなど意識しています。

対人援助職に就くうえで、対人関係形成能力の習得は大前提と言えます。学生のレディネスを把握し、実習教育の場で病院や施設の方々に学習状況などを伝え、協力を得ながらすすめています。人を全人的に理解し、人の語りを聴くことから関係性を育み、援助的人間関係構築の過程を大切に学び、習得してほしいと願っています。共感や傾聴を技術として用いるのではなく、自分を活用して関わるのが関係を育み、その人らしい生活を送れるよう協働することがケア実践につながることを体験を通じて学んでほしいと思います。プロセスレコードを用いて振り返ることは、他者や自己への洞察や総合的な理解を深め、感性を磨き、人間力を高める一助となると考えます。グループワークや個別での関わりを活用しながら深い理解が促進されるよう努めています。同時に、人々の尊厳と権利を擁護する能力も培えるよう、考え、検討し合える場を設けるなど意識して取り組んでいます。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

精神医療の特殊性から精神科病院での実習に不安や戸惑いを抱く学生も多い状況にありました。「最初は不安だったけど、いつも教員が居て支援してくれた。」「精神疾患を抱える人への理解が深まった。」「患者さんの訴えや語りを理解しようと聴き、関係を築くことが楽しく、それがケアに結びつくとわかった。」「自分を活かして他者を気遣い、ケアすることを学んだ。」など、感想をいただくことが多く、実習の授業評価は高い方でした。

一方、人への理解を促進させるための知識や理論体系は理解し難いこともあり、わかりやすい授業の実践、実習において理論と実践の繋がりを明確にすることを課題としています。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

1. 授業内容・方法などの検討

基礎的知識や技能の習得を重視しつつ、より他者や自己への理解を深め、精神疾患を抱える人の地域生活について学習できる授業展開をめざし、現行の教育を大切に検討し合い、シラバスや実習要項などに反映させていきたいと考えております。

2. 実習病院、施設との協力体制の強化

今年度、4病院、3施設にご協力をいただき、実習に臨む準備を進めております。今年度より、就労継続支援B型事業所、訪問看護ステーションにおいて実習させていただけることとなりました。病院、施設の方々のご協力に感謝し、学生の学びにむけて協働し、教育のあり方を考えていきたいと思っております。

3. 国家試験全員合格をめざした支援

2024年度出題傾向もふまえて国家試験対策を講じ、支援いたします。

達成時期：2026年3月

＊着任後3週間で目標を設定したため、随時見直し、取り組んでまいります。

＊ 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

＊ TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。

（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。）